

シリーズパソコン周辺機器 ②②

「ウェブブラウザ」

宮杉 浩

今回お話しするのは「ウェブブラウザ」についてです。このシリーズもはや20回を越え、本コーナーの様々なテーマの中でインターネットに関するものを取り上げてきましたが、今回あらためてその根幹ともいえる「インターネット・ブラウザ」について取り上げてみたいと思います。

ご存じの方がほとんどだと思いますが「ウェブブラウザ」とはインターネットを閲覧するためのソフトのことをいい、「インターネット・ブラウザ」とも呼ばれます。パソコンやスマートフォン、携帯電話とあらゆる手段でインターネットを閲覧することができる現在ですが、すべて「ウェブブラウザ」を利用して閲覧しているのです。

インターネットが登場し、社会的に認知されつつあった時代にはNetscape社の「Netscape Navigator」がシェアの9割を誇っていました。ただマイクロソフト社から「Internet Explorer」がリリースされ、パソコンの世界で主流OSとなっていた「Windows」とリンクすることで爆発的なシェアの拡大に成功し、2000年代初めには完全に「Netscape」を追いやってウェブブラウザの盟主の座につくこととなったのです。

今日のウェブブラウザ市場は「Internet Explorer」が未だ5割以上のシェアを誇っているものの、「Firefox」、「Google Chrome」など新たなウェブブラウザ・ソフトが急速にシェアを伸ばしており、また携帯電話でのウェブブラウザ・ソフトとしては「Opera」がシェアの大半を占めています。Apple社のMacパソコンでは「Safari」が一般的なウェブブラウザとして認知されています。

現在、一般的に利用されている「Internet Explorer」、「Firefox」、「Google Chrome」は基本的な使用方法はあまり変わらないものの、セキュリティ、デザイン・ツール、インターネットの接続速度などでそれぞれ特徴があります。実際Windowsパソコンを購入すると確実に「Internet Explorer」がインストールされているためそのまま利用しがちですが、「Firefox」、「Google Chrome」などのウェブブラウザも一度利用してみてください。インターネットから無料でダウンロードできますので、色々試してみることで自分に合ったウェブブラウザを探していただきたいと思います。

インターネットでの動画の閲覧、音楽の再生、プラグインを利用した動的なWebページ構成が主流となり、スマートフォンやiPadといったタブレット端末が急速な進化をとげている状況で、ウェブブラウザもさらなる進化が予想されます。自身のインターネットの利用形態に即したウェブブラウザを見つけることが、情報収集能力のさらなる向上に繋がりますので、今後の動向に皆さんも是非注視していただきたいと思います。

みやすぎ ひろし（係長補佐・管理運営課）